

令和5年度

学校法人高水学園
事業報告書

学校法人 高水学園
岩国市尾津町二丁目24-18

1 法人の概要

(1) 建学の精神

学校法人高水学園は、明治初年、熊本郡高水村(現周南市)に開設された磨鍼塾を源流とする。村塾以来一貫した建学の精神は、「徳性の陶冶」と「楽学」の実践にあり、勤労を尊び生活は質素であるべきことを教育の指導理念としてきた。今後もこの建学の精神を継承していき、さらに広い世界観に立つ教育を実践していく。

(2) 法人の概要

明治	31 年	4 月	山口県高水村新町に就業年限2ヶ年の高水村塾を創設
	32 年	11 月	私立学校令発布により塾則を制定
大正	9 年	7 月	修業年限5ヶ年に延長し高水中学と改称
	12 年	3 月	財団法人山口県高水中学校に移行
昭和	23 年	4 月	学制改革により財団法人山口県高水高等学校に移行、併設中学校は付属中学校と改称
	26 年	3 月	学校法人山口県高水高等学校同付属中学校と改称
	27 年	4 月	全日制商業科設置
	29 年	4 月	岩国市に学校移転
	34 年	4 月	校名を高水高等学校・同付属中学校と改称
	35 年	4 月	高水高等学校家政科を設置
	46 年	4 月	法人名を高水学園と改称、岩国短期大学(幼児教育科、英語科)を設立
	51 年	3 月	高水高等学校家政科を廃止
	56 年	11 月	岩国短期大学創立10周年記念式典挙行
平成	10 年	10 月	学園創立100周年記念式典挙行
	13 年	4 月	岩国短期大学にビジネス実務科設置
	14 年	3 月	岩国短期大学英語科を廃止
	18 年	4 月	ビジネス実務科をキャリアデザイン学科に名称変更
	20 年	4 月	高水高等学校付属中学校と高水高等学校の一貫教育の施行(学則に規定化する)
	25 年	3 月	岩国短期大学キャリアデザイン学科廃止
	30 年	4 月	学園創立120周年
令和	3 年	4 月	岩国短期大学創立50周年

(3) 設置する学校学科の名称・設立月・所在地

令和5年5月1日現在

学 校 名	設立年月	所 在 地
岩国短期大学	昭和46年4月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校付属中学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号

(4) 設置する学校学科の入学定員と学生生徒数(単位：人)

令和5年5月1日現在

学校名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
岩国短期大学	幼児教育科	70	65	140	121
高水高等学校	普通科	280	126	840	435
高水高等学校付属中学校		70	23	210	70

【教職員の概要 専任(非常勤)】(単位：人)

令和5年5月1日現在

学校名	教員数(非常勤)	職員数(非常勤)	合計(非常勤)
岩国短期大学	13 (21)	9 (7)	22 (28)
高水高等学校	39(8)	6 (0)	45 (8)
高水高等学校付属中学校	7 (0)	0 (0)	7 (0)

(5) 役員等の概要

(令和5年5月1日現在)

● 理事の就任年月日

定員数 理事8名、監事2名

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	経 歴（役割）	就 任	
				就任年月日 （重任年月日）	届出年月日 （登記年月日）
理 事 長	宮 川 明	常勤	高水学園理事長	平成12年12月7日 (R2.6.1)	平成24年10月31日 (H24.10.22)
常務理事	宮 川 洋	常勤	高水高等学校 (財務担当)	平成16年10月13日 (R2.6.1)	平成24年10月31日 (H24.10.22)
理 事	河 本 智 勇	常勤	岩国短期大学学長(教学)	令和5年4月1日	令和5年4月1日
理 事	高 田 美 樹	常勤	高水高等学校校長(教学)	令和4年5月1日	令和4年5月1日
理 事	中 村 洋 子	常勤	岩国短期大学副学長兼事務 長 (財務担当)	令和3年4月1日	令和3年4月1日
理 事	松 原 一 誠	非常勤	錦ドリーム開発取締役 (広報担当)	平成17年4月1日 (R2.6.1)	平成24年10月31日
理 事	富 沢 佐 一	非常勤	前中国新聞社客員編集委員 (広報担当)	平成24年10月13日 (R2.6.1)	平成24年10月31日
理 事	館 澄 子	非常勤	高水学園同窓会副会長 (教学指導担当)	平成27年4月1日 (R2.6.1)	平成27年4月1日

● 監事の就任年月日

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	就 任	
			就任年月日 （重任年月日）	届出年月日
監 事	村 元 真 澄	非常勤	平成27年12月10日 (R2.6.1)	平成27年12月14日
監 事	稗 本 哲 也	非常勤	平成31年3月1日 (R2.6.1)	平成31年3月1日

(6)評議員の概要

(令和5年5月1日現在)

(定員数17名)

氏 名	主な現職等	就 任	
		就任年月日	重任年月日
宮川 明	理事長	令和2年6月1日	
宮 川 洋	常務理事	平成17年4月1日	令和2年6月1日
河 本 智 勇	理事	令和5年4月1日	
高 田 美 樹	理事	令和3年4月1日	
中 村 洋 子	理事	令和5年10月13日	令和2年6月1日
松 原 一 誠	理事	平成12年10月13日	同 上
富 沢 佐 一	理事	平成16年10月13日	同 上
舘 澄 子	理事	平成12年10月13日	同 上
加 藤 善 美	前岩国短期大学学長	令和2年6月1日	同 上
西 村 宏	高水学園同窓会副会長	平成22年4月1日	同 上
松 本 泰 行	元高水高等学校教頭	令和2年6月1日	同 上
吉 岡 賢 一	高水学園同窓会副会長	平成15年7月16日	同 上
玉 田 和 子	錦病院理事	平成16年10月13日	同 上
前 田 茂 雄	元高水高等学校長	令和4年4月1日	同 上
若 本 公 夫	岩国短期大学入試広報センター長	令和4年4月1日	
山 吹 誠	高水高等学校教頭	令和5年4月1日	
竹 野 博 信	岩国短期大学幼児教育課長	令和5年4月1日	

(7)校地校舎等の状況

① 校地等

(令和5年5月1日現在)

区分	(学校名)			岩国短期大学			高水高等学校・中学校			合 計		
	専用	共用	計	専用	共用	計	専用	共用	計	専用	共用	計
所有	34,551.00 ㎡		34,551.00 ㎡	131,822.00 ㎡		131,822.00 ㎡	131,822.00 ㎡		131,822.00 ㎡	166,373.00 ㎡		166,373.00 ㎡
借用			0.00			0.00			0.00			0.00
合計	34,551.00	0.00	34,551.00	131,822.00	0.00	131,822.00	131,822.00	0.00	131,822.00	166,373.00	0.00	166,373.00
最終届出年月日	H21 年	12 月	28 日	H10 年	2 月	3 日				年	月	日

② 校舎等

区分	岩国短期大学			高水高等学校・中学校			合 計		
	専用	共用	計	専用	共用	計	専用	共用	計
所有	8,705.00 ㎡	0.00	8,705.00 ㎡	18,482.00 ㎡	0.00	18,482.00 ㎡	27,187.00 ㎡	0.00	27,187.00 ㎡
借用									
合計	8,705.00	0.00	8,705.00	18,482.00	0.00	18,482.00	27,187.00	0.00	27,187.00
最終届出年月日	H17 年	5 月	31 日	H29 年	7 月	13 日	年	月	日

■【短期大学】

1. 保育のスペシャリストを養成し、地域に信頼される特色ある短期大学づくり

本学の建学の精神は、「楽学」である。この建学の精神「楽学」に基づき、教育理念と幼児教育科の教育目的を次のように定めている。

<教育理念>

- ・徳性の陶冶を重んじ、人間性を練り鍛え、豊かな人間形成を図る。
- ・地域に生きて働く人材を養成する。

<幼児教育科教育目的>

保育に関する実践的な知識と技能を協働的な学びの環境において主体的に習得し、課題解決能力と創造力、コミュニケーション能力を会得させ、ボランティア活動などの地域貢献を通して敬愛の精神の練成を図り、学生自らの徳性の陶冶を通じて保育者としての使命感を持ち、社会的に有為な人物となるように指導することを教育目的とする。

建学の精神に基づく教育目的を達成するために、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得、それに伴う身につける資質・能力を4つの学習成果として定め、保育のスペシャリストの養成を念頭に、学生にその自覚と意識を常に覚醒させるべく具体的な教学活動を実施していく。

【幼児教育科の学習成果】

保育者としての専門的な知識と技能	・保育者としての専門的な知識や技能を習得している。 ・保育現場で生かす実践力が身についている。
表現力と コミュニケーション能力	・音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる。 ・他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身につけている。
責任感と協力性	・授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる。
地域貢献と敬愛の精神	・ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる。

その他、基礎科目において、高等教育における基礎的学力を保証するために、基礎ゼミナールを開設し、教養科目においては幼児教育を包括的に支える講義内容を提供する。これらの教養教育を通じて正しい人生観と開かれた社会性を持った職業人として生きる誇りと自覚を与える。

本年度の最優先課題は、学生募集であり、効果的な広報活動とオープンキャンパスの充実を図っていく。また、幼児教育科単科の短大として山口県東部地区における地域の活性化に貢献する地域貢献事業を継続して展開していくことである。この事業展開の中で地域の本学における認知度を向上させることで、本学への進学率を高めることと、地元保育関係者の本学への信頼に基づく就職などの協力体制を確かなものにしていくことをめざす。

地域貢献事業は、次の項目を中核として展開していく。

- ◆「岩国子育て支援ネットワーク(lwatan 子育て愛ねっとアカデミー)」の事業の推進
- ◆岩国市、岩国商工会議所との連携協定の事業の推進
- ◆高大連携協定校との事業の推進

時代の変化は厳しいものがあるが、本学は単科の短期大学として他に類を見ない事業展開を通じて、18歳人口の減少が続く少子化社会の中で、その真価を発揮して地域に根付き、地域に生きて働く人材を養成していく。

次に、継続してICT(Information and Communication Technology(情報通信技術))教育の推進を行う。膨大な知識や情報の中から必要なものを主体的に選び取り、活用できる「情報活用能力」や「創造力」の育成を、各教員が自身の専門性を生かした授業を展開していくことをめざす。さらに、地域の特色を生かし、岩国米軍基地内にあるペリースクールとの関係構築を進め、異文化交流の実現をめざしていく。

引き続き感染症対策室を中心に新型コロナウイルス感染症に対して迅速な対応をとるとともに、学生の不利益にならないよう十分な配慮を行っていく。

2.令和5年度基本方針と取り組み

-質の高い教育の実践と地域密着の短期大学-

(1)保育のスペシャリストを養成

【保育者としての専門的な知識と技能】

- ① 「お店屋さんごっこ(1年)」-「大学祭・キッズルーム(1年)」-「lwatan親子フェスタ(1・2年合同)」の系統的な実施

○「お店屋さんごっこ」は6月29日に開催した。

○「大学祭・キッズルーム(1年)」は11月19日に開催した。

○「lwatan親子フェスタ(1・2年合同)」は10:00~14:30と開催時間を延長し、3月3日に実施した。

事前予約(184組633名)、当日受付(140組467名)、MCCS(4組15名)、計328組1,115名が参加

- ② 教育・保育実習の充実

専門性が高く保育実践力のある保育者を養成するために「模擬保育」「1・2年生合同学習会」「実習事前指導(絵本100冊読み等の取り組み、保育現場でよく使う漢字テスト、手遊び歌、パネルシアター、素話等)」「実習評価(1・2年)個別指導」「自主実習、インターンシップ実習の推奨」等の取り組みを行った。また実習先との連携強化のために「教育・保育実習連絡協議会」「施設実習連絡協議会」はハイブリット方式で対面とリモートで実施した。

- ③ 就職支援の充実

就職支援システム(「プレカレッジ」-「新入生研修会」-「基礎ゼミナール」-「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」-「保育・教職実践演習研究発表」-「フォローアップセミナー」-「卒業対象研修会」において入学前から卒業後までの一貫した就職支援)に沿って、キャリア支援センターが主体となり、全教職員で職業教育を実施した。

主な取り組みは次のとおりである。

* 入学予定者を対象とした「プレカレッジ」(入試広報センター主催)

* 入学直後の「新入生研修会」、1年生前期「基礎ゼミナール」、1年生後期、2年生前・後期の「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」等による職業教育

* 2年生前期に現職園長による面接指導講座

* 卒業後3ヶ月目に「フォローアップセミナー」、「卒業生対象研修会」(こども未来保育研究所主催)を本年度は対面で開催できた。

* 「ようこそ先輩!保育実践力養成講座」を開講し、保育・福祉現場では活躍している卒業生を講師として招き、就職体験講話・ピアノの弾き歌い、ワークショップ等をとおして、保育実践力や学生の就職意識が高まっていくよう努めた。講座概要は以下のとおり。

回	月 日	対 象	講 師
第 1 回	令和 5 年 5 月 12 日(金)	2 年生	川西保育園勤務 米光 沙羅先生(令和元年度卒)
第 2 回	令和 5 年 9 月 29 日(金)	2 年生	認定こども園岩国東幼稚園勤務 小川 和奈先生(平成 30 年度卒)
第 3 回	令和 5 年 12 月 15 日(金)	1 年生	共栄養育園勤務 栗屋 清隆先生(令和 2 年度卒)

・就職ガイダンス、東部校訓練生の受け入れと就職ガイダンスの実施

全学生に対して、1 年次には「前期オリエンテーション」「基礎ゼミ」「後期オリエンテーション」「キャリア開発Ⅰ」、2 年次には「前期オリエンテーション」「キャリア開発Ⅱ」「キャリア開発Ⅲ」の授業の中で就職ガイダンスを行い、本年度も就職率 100%を達成した。

例年山口県立東部高等産業技術学校の保育士養成科の訓練業務及び就職支援業務委託制度を利用した社会人を受け入れている。年 3 回の就職ガイダンスを実施し、日々の保育職への就職支援を行い、希望先に就職できた。

・就職面談、面接指導の実施

キャリア支援センター職員が進路希望調査に基づき、全学生を対象に 1 回 20 分程度の就職個人面談を行っている。学生が利用しやすいようにネットでの面談予約システムを実施した。また学生が積極的に自分自身の就職活動を進めていくために報告・連絡・相談を重視した支援を行った。

・就職試験対策講座の実施

山口県私立幼稚園協会、岩国私立幼稚園協会等が実施する適性試験の対策として、就職試験対策講座を次の通り計画し開講した。

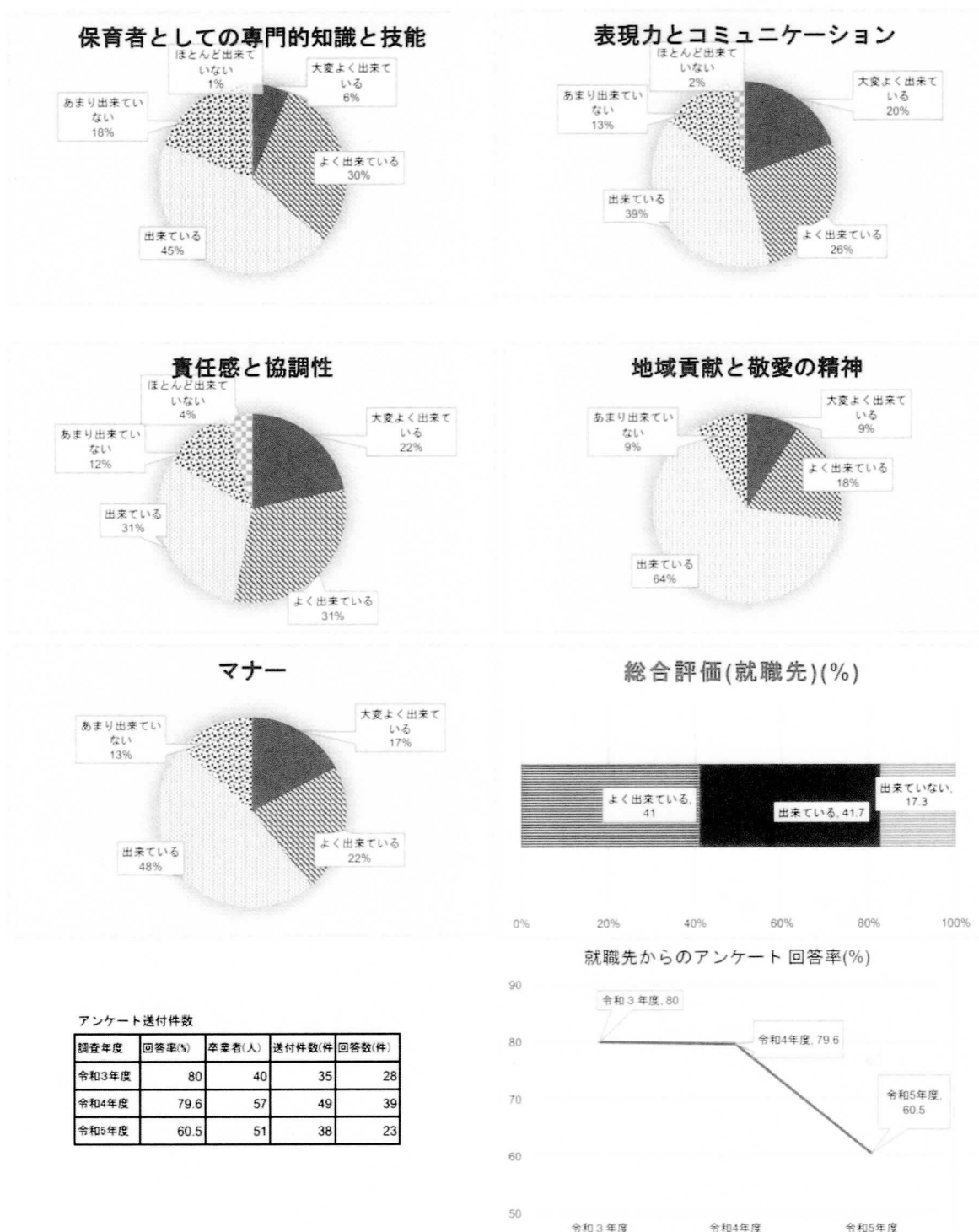
令和 5 年度 山口県・岩国私立幼稚園教員採用試験対策講座

月 日	曜日	時間	内 容	対 象	担 当
4 月 8 日	土	5 限	講座の説明会・保育で使う漢字 就職試験傾向と対策 1	全 員	竹 野 佐々木
4 月 24 日	月	4 限	就職試験傾向と対策 2	全 員	荒 谷
5 月 16 日	火	5 限	就職試験傾向と対策 3	全 員	水鶏口
5 月 18 日	木	4 限	就職試験傾向と対策 4	全 員	数 井
6 月 14 日	水	5 限	就職試験傾向と対策 5	全 員	朝 倉
6 月 15 日	木	4 限	就職試験傾向と対策 6 造形(実技)	全 員	向 山
6 月 22 日	木	4 限	身体表現(体育)実技	岩国市	西 本
授 業 内			論作文	岩国市	宮 下
			岩国市私立幼稚園試験直前確認 課題曲(ピアノ実技模擬試験)	岩国市	赤 川 井 上
6 月中	空きコマ又は 5 限		ピアノ発表会(3 回)		
6 月 23 日～	空きコマ又は 5 限		岩国市私立幼稚園(面接)	岩国市	キャリア支 援センター 員

・卒業生就職先アンケートの実施による教育・就職支援の改善

教育・就職支援の自己点検・評価活動のために、卒業生就職先へのアンケートを実施している。本学の学習成果「保育者としての専門的な知識と技能」に関すること、「表現力とコミュニケーション能力」に関すること、「責任感と協力性」に関すること、「地域貢献と敬愛の精神」に関すること 22 項目無記名方式で、5 段階評価で回答を得た。アンケートの結果は内容ごとに集計し、その結果を教授会等で報告し、全員で学習成果の点検に活用した。

令和4年度卒業生就職先アンケート結果



・県内就職率向上のための取り組み(就職開拓訪問、就職ナビ in いわたん)

毎年「就職開拓訪問」を実施している。新卒者の就職先を訪問し、卒業生との面談を行い、状況を把握したり、園長等から本学への要望等を聴取したりすることで連携を深め、就職に繋げている。

「就職ナビ in いわたん」を県内東部地区及び学生の居住地域である広島県西部地区にも範囲を広げ幼稚園・保育所・認定こども園・施設、の合同説明会へ拡充した。4年ぶりの対面での就職ナビを開催することができたことで、就職活動に大変有益となった。

【表現力とコミュニケーション能力】

① ウィンターコンサート、卒業記念コンサート等の実施

ウィンターコンサート、卒業記念コンサート等の実施により、表現力の育成に努めている。本年度のウィンターコンサートは、全学生がクラスごとに協力して練習に取り組み、一堂に会して演奏発表を行うことができた。また、学位記授与式では、卒業記念コンサートを開催し、選抜された学生による演奏発表を行った。

② 現場に即した幼児体育の模擬授業や1・2年生合同運動会の実施

「幼児体育Ⅰ・Ⅱ」の授業では、保育実践力を身につけるための模擬授業や1・2年生合同運動会の取り組み等、現場に即した内容を多く取り入れ、実施している。昨年度実施できなかった合同運動会は、本年度はチームごとに他者とのコミュニケーションを図りながら創意工夫を行い、大きな成果が見られた。

③ 「クリエイティブ・ムーブメント」による本学独自の自己表現力育成教育の推進

「クリエイティブ・ムーブメント」では本学独自の自己表現力育成教育を行っている。本年度は、コロナ5類移行に伴い、制限なく実施することができた。自己表現の方法や意義、コミュニケーション能力の向上をめざし、授業以外でもオープンキャンパスの学科紹介や清流祭の劇発表で成果が見られた。

④ 中・四国保育学生研究大会への継続的な参加

本年度は4年ぶりに中・四国保育学生研究大会が対面で開催された。保育研究クラブのメンバーで研究を進め、12月3日に高知市の高知県民文化ホールにて劇発表を行い、表現力を高めることができた。

【責任感と協力性】

① 協働的な学習・行事への取り組み(「お店屋さんごっこ(1年)」-「大学祭・キッズルーム(1年)」-「lwatan親子フェスタ(1・2年合同)」の実施、1・2年生合同運動会、1・2年生実習合同学習会等)

「お店屋さんごっこ」、大学祭の「キッズルーム」、「lwatan親子フェスタ(1・2年合同)」は予定通り実施することができた。また、1・2年生合同運動会、1・2年生実習合同学習会も実施し、これらの活動を通して、一つの目標に向かって協働して取り組むことができた。

② 中・四国保育学生研究大会への参加

本年度は4年ぶりに中・四国保育学生研究大会が対面で開催された。保育研究クラブのメンバーで研究を進め、12月3日に高知市の高知県民文化ホールにて劇発表を行い、表現力を高めることができた。

【地域貢献と敬愛の精神】

① 岩国子育て支援ネットワーク(lwatan子育て愛ねっとアカデミー)の事業の充実

・第13回「lwatan親子フェスタ」の開催(3月)

10:00～14:30と開催時間を延長し、3月3日に開催した。来場者数は1,115名であった。

・「lwatan親子広場」の開催(年間6回)

令和5年度「lwatan親子広場」実施状況及び参加者数

回	日時及び講師	講座名	学生ボランティア(人)	参加親子(組)	保護者(人)	子ども(人)	合計(人)
1	5月13日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 西本 裕子	走って、跳んで! 楽しい運動遊び	10	10	12	15	27
2	6月18日(日) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 朝倉 なぎさ	親子でワクワク表現遊び ～なりきり遊びを楽しもう～	11	8	9	8	17
3	7月8日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 井上 美佳	親子 de リトミック	8	8	9	12	21

4	8月6日(日) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 水鶏口 陽一	えーどうして? 親子で楽しむ科学実験	9	11	12	16	21
5	9月23日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 数井 智子	ようこそ絵本の世界へ	9	10	10	15	25
6	10月22日(日) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 向山 伊津子	表現遊び	9	9	10	12	22
合 計			56	56	62	78	140

・岩国市との共同開催による保育者対象研修会の実施(年間2回)

本学を会場とする岩国市との共同開催による保育者対象研修会は、年間2回開催しており、全学生及び全教員も受講することとし、以下の通り開催した。

回	開催日時	演 題	講師名
1回	7月29日(土) 14:00～15:30	子どもの健やかな育ちを促すこれからの子育て支援を考える	周南公立大学福祉情報学部 人間コミュニケーション学科 准教授 竹下 徹 先生
2回	1月27日(土) 14:00～15:30	働きかけを振り返る ～5歳児発達相談等を通じて～	社会福祉法人はるか はるかこどもの相談センター 公認心理師 大津 秀隆 先生 岩国市福祉部子ども家庭課 母子保健班 保健師 柴田 千賀子 先生

② 岩国市、岩国商工会議所との連携推進

岩国市との包括連携推進会議(5月25日(木)実施)では、岩国市の各部署との意見交換をし、事業推進にあたり担当者同士の連携を密にして事業実施が円滑に行われるよう工夫し、本学が行う生涯学習公開講座や地域の子育て世代を対象にした保育者対象研修会等、岩国市と協力し実施することができている。また、岩国市子育てアプリや岩国市フェイスブック上で本学の各種行事を発信した。

商工会議所との包括連携推進会議を8月28日(月)に開催した。岩国商工会議所が主催する「岩国祭」への学生のボランティア参加や「lwatan 親子フェスタ」への販売ブース等の出店をしていただく等協力関係も継続できている。

③ 高大連携協定校との連携推進

高大連携協定校7校との推進会議を2回ずつ開催することができた。

また、協定校に対して多くの出前授業を実施することができた。

協定校名	第1回推進会議	第2回推進会議	出前授業実施回数
山口県立岩国総合高等学校	10月13日(金)	2月28日(水)	6
山口県立岩国商業高等学校	11月21日(火)	2月21日(水)	2
山口県立高森みどり中学校・高森高等学校	6月28日(水)	2月28日(水)	中学校4 高校6
広島県立大竹高等学校	7月4日(火)	3月12日(火)	3
山口県立熊毛北高等学校	6月27日(火)	2月27日(火)	3
山口県立熊毛南高等学校	10月31日(火)	2月16日(金)	2
山口県立周防大島高等学校	6月21日(水)	2月21日(水)	0

3月3日(日)に実施した「第13回 lwatan 親子フェスタ」では、各高校がブース出展をしたり、ブースでの

活動援助を行ったりしてフェスタを盛り上げていただいた。

④ 学生ボランティア活動の推奨

・「学生ボランティア活動記録」の記入

学生全員に「ボランティア活動記録カード」を配付し、学生自らボランティア活動記録を記入している。ボランティアの活動時間数などにより表彰制度を設けているため、学生のモチベーションにもなっている。また、記録カードはボランティア活動への意識づけとしている。

・年間最低 2 回のボランティア活動の義務化

本学に依頼がある地域からのボランティアの他、1 年生は年間 6 回開催する「Iwatan 親子広場」に参加し、併せて年間 2 回以上のボランティア活動に参加することを義務化している。

・宮川渙男賞、地域貢献奨励賞の表彰

宮川渙男賞・地域貢献奨励賞受賞学生の選出について、受賞候補となる学生として、46 時間以上の地域社会への貢献活動に参加していることとしている。地域貢献奨励賞を受賞する学生の中からボランティア活動に特に積極的であった学生 2 名を宮川渙男賞に選出し、学位記授与式に表彰している。近年の実績は、次の表のとおりである。

	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
受賞者数 (宮川渙男賞 2 名を含む)	18 人	45%	17 人	39%	24 人	46%	24 人	46%

⑤ 生涯学習公開講座の開催(年 2 回:前期・後期)

・専任教員による専門性を生かした講座の開催(前後期合わせ 6 講座以上)

生涯学習公開講座は、地域市民のために年間、前期と後期に分けて開設し、専任教員の専門分野を活かした内容となっている。本年度は前期 6 講座、後期 4 講座を計画し募集したが、前期 4 講座、後期 2 講座の実施となった。実績は次のとおりである。

【前期】

講座名	受講人数
楽しい声楽 ～歌曲からオペラアリアまで～	13 名
癒しのマインドフル英会話 ～簡単な英語でマインドフルネス～	13 名
大人のための絵画 ～いつか描いてみたかった水彩や油彩～	11 名
はじめてのピアノ ～もしもピアノが弾けるなら～	15 名

【後期】

講座名	受講人数
楽しい弾き歌い ～ピアノ初心者のための入門講座～	16 名
楽しく学べるコード奏	17 名

⑥ 1・2 年合同集会の実施(年 4 回)

1・2 年生との親睦を図り、敬愛の精神を育成するために実施している。実施日内容は以下の通りである。

実施日	4 月 21 日(金)	6 月 23 日(金)	10 月 6 日(金)	11 月 18 日(土)
内容	校歌指導 建学の精神を知ろう	ミニインドア・アスレチック	障害者スポーツレクリエーション	校歌指導 いわたんクイズ

(2) 入学定員確保

① 魅力あるオープンキャンパスの実施

・オープンキャンパス強化プロジェクトの推進

月 1 回程度のペースで開催する OCP(Open Campus Project)会議(令和 5 年度 11 回開催)では、学生募集に繋がるための魅力あるオープンキャンパスにむけた戦略の立案、年間計画や年 8 回のオープンキャン

パスの実施要項の策定を行っている。また、オープンキャンパスに参加した高校生、保護者の方に本学の良さを理解していただくために、各回の内容を充実させるための協議を重ねている。実施後はオープンキャンパスニュースを作成し、学内(学生・教職員)へ発信している。また、出身校別のキャンパスメイトを掲載したチラシを作成し、各高校へ配布することで参加者の増加に努めている。

・年間 7 回のオープンキャンパスの実施

令和 5 年 3 月 21 日～令和 6 年 1 月 12 日まで、1 月の社会人向けオープンキャンパスを実施し、計 8 回実施した。日程とテーマは以下の通りである。

令和 5 年度オープンキャンパスの概要

回数	日程	テーマ	参加人数	キャンパスメイト
1	3 月 21 日(火)祝	夢は保育者！	14 名	15 名
2	6 月 18 日(日)	ピアノ体験 初心者でも大丈夫！	19 名	20 名
3	7 月 8 日(土)	幼児と遊ぼう！	20 名	19 名
4	8 月 6 日(日)	保育のテーマパーク いわたん	38 名	20 名
5	9 月 23 日(土)祝	1 日いわたん体験	21 名	17 名
6	10 月 22 日(日)	現役保育者を招いて	10 名	16 名
7	11 月 19 日(日)	清流祭を楽しもう	22 名	6 名
8	1 月 12 日(金)	社会人対象オープンキャンパス	2 名	教員で対応

また、幼児を招いてオープンキャンパスを実施することとし、第 3 回「幼児と遊ぼう！」で同日に開催された第 3 回 Iwatan 親子広場「親子 de リトミック」に高校生がキャンパスメイトとともに参加した。幼児と一緒に活動することで、保育者としての目標を明確にするとともに、親子広場の学生ボランティア(本学 1 年生)の様子を知ること、本学の学生像のイメージを持つことに繋がった。

・広報活動の充実(DMの活用、オリジナル缶バッジの作成と配付、高校訪問等)

各回のオープンキャンパス開催に合わせて DM を発送して参加を呼び掛けた。毎回、DM を見て参加予約を入れている高校生もあり、効果がみられた。また、高校訪問、高大連携会議、各高校ガイダンス等において、オープンキャンパスのチラシの配布と呼び掛けを行った。また、オリジナル缶バッジの作成・配付は見送ることとした。

・表現力を生かした学生による学科紹介の取り組み

学生による学生発表では、キャンパスメイトが授業を通じて培った力を発揮し、創作劇、楽器演奏、ダンスなどの発表、また図画工作で学んだ技術をいかし高校生との製作ワークショップなどを行った。参加した高校生のアンケート結果を見ると、「とても良かった」「楽しかった」「いわたん学生がいきいきと表現されていてすごいと思った」などの感想が多い。また、高校生にとってキャンパスメイトである在学学生と直接触れ合い、色々な話が聞けることも、学生募集につながるきっかけとなっていると言える。

・現役の卒業生を招いてのオープンキャンパスの実施

第 6 回「現役保育者を招いて」では、本学の卒業生である現役保育者を招いて、実際の保育の現場での話や仕事のやりがいについて学ぶ機会を設けた。手遊びや子どもと遊べるおもちゃの製作を行うことで、楽しみながら保育について大切なことを学ぶことができた。参加者にとって保育者の仕事についてイメージを持つことができ、学生募集に繋がる内容となった。

② 本学独自の奨学金制度の拡充

・高大連携協定校に対する奨学金制度

高大連携協定校からの意欲ある学生を迎えるため「高大連携協定校奨学金」を整備しており、協定校在籍の生徒が学校推薦型選抜(指定校推薦)によって受験し、合格した場合には入学金を半額免除することとしている。令和 6 年度入学者選抜においては 4 名の受験者がこの奨学金の適用を受けた。

・指定校推薦校に対する奨学金制度

指定校から意欲ある学生を迎え入れるため「学校推薦型選抜(指定校推薦)成績優秀者奨学金」を整備しており、令和 6 年度入学者選抜においては、全額免除者(評定平均値 4.5 以上)6 名、半額免除者 4 名が適用を受けた。

・多様な能力や資質、個性を持った受験者に対する総合型選抜特別奨学金

総合型選抜の受験合格者のうち、成績上位者から 5 名まで「総合型選抜特別奨学金」として入学金全額または半額免除している。令和 6 年度入学者選抜においては、3 名が半額免除対象者となった。

・卒業生子女等に対する卒業生子女等進学支援奨学金

本学卒業生の子女及び兄弟姉妹 5 名に「卒業生子女等進学支援奨学金」として入学金の半額免除を行った。

・遠隔地出身学生に対する生活支援奨学金制度

本学が指定する遠隔地出身で一人暮らしをしている学生 1 名に「遠隔地出身学生生活支援奨学金」として 1 か月につき 1 万円の授業料免除を行った。

・経済的困窮家庭に対する修学支援奨学金

学費負担世帯の総合収入が 300 万円以下の経済的困窮家庭に対する支援として前期 9 名、後期 9 名に「修学生奨学金」として授業料の半額免除を行った。

・社会人の学び直しや就学を支援するための社会人進学支援奨学金

令和 5 年度においては対象となる社会人は在籍しなかった。

・学業に優れた成績を収めている学生に対する岩国短期大学同窓会奨学金

令和 4 年度卒業生より「岩国短期大学同窓会奨学金」は廃止し、卒業時に成績優秀者 1 名を岩国短期大学同窓会会長賞として表彰している。

③ 中・高大連携授業の推進

・「保育者をめざす高校生のための高大連携授業プログラム」のパンフレット配布と実施

令和 5 年度、「保育者をめざす高校生のための高大連携出前授業プログラム」のリーフレットを 500 部作成し、各高等学校へ配布して利用を呼び掛けた。本学の協定校においては積極的に利用され、出前授業の機会を多く持つことができた。

・高大連携協定校の開拓

令和 5 年度においては、新たに高大連携協定校を開拓することができなかった。

・高水高等学校等の単位互換制度の継続

令和 3 年度より高水高等学校との単位互換制度が始まった。本年度は 6 名の高水高等学校 3 年生を本学科目等履修生として受け入れ、高水高等学校科目『幼児教育演習』と本学科目『音楽表現技術』との単位互換を行った。このうち、3 名の高水高等学校生徒が令和 6 年度生として本学に進学した。また、新たに令和 6 年度から高水高等学校科目『英語』と本学科目『英語コミュニケーションⅠ』との単位互換制度がスタートすることがになった。

・高水高等学校との推進協議会の推進(合同研修会、合同オープンキャンパスの実施)

高水高等学校との連携を深めるために、お互いの研修を案内する取り組みを行っている、また、高水高校と合同で経営財務状況等の改善に関する説明会、SWOT 分析を行う高水学園合同研修会を行った。学園全体で一体となった取り組みとして七位ができるか SOWT 分析で話し合い、法人へ提案した。高校の先生方と研修会を通して情報の共有と学園間での交流から、共通の課題を認識することができた。

オープンキャンパスについては 8 月 6 日に短大・高校と同時開催を実施し、短大の教員と学生が高校のオープンスクールに出向き、保育の魅力を参加生徒に発信することができた。

令和 5 年度高水学園教職員合同研修会及び推進会議の実施

日時	内容
6 月 9 日(金)	高水高等学校進路説明会及 第 1 回高水学園高大連携推進会議推進会議

8月23日(火)	高水学園財務状況説明会 岩国短期大学・高水高等学校合同研修会(SWOT分析) 第2回高水学園高大連携推進会議
9月6日(水)	岩国短期大学ハラスメント研修会
2月9日(金)	第3回高水学園高大連携推進会議

・高大連携協定校へのlwatan 親子フェスタへの協力依頼による連携強化

本年度は、従来の開催時間 10:00～14:30 に戻り「lwatan 親子フェスタ」を実施することができた。高大連携協定校の8校のうち、ブース参加が3校、ボランティア参加が5校と全ての高大連携協定校の協力があり、連携強化が図られた。

(3)教職員の資質向上

① FD 研修による授業改善

FDはFaculty Developmentの略で「教育内容・方法等をはじめとする研究や研修を大学全体として組織的に行うこと」である。具体的な取り組みとして、①「教員の研究能力や教育能力の開発」、②「教育システムの開発(カリキュラム・授業評価などの仕組みをつくること)」、③組織開発(教育研究組織などをベストな形にすること)」があげられる。今年度は、教員授業相互参観(前期・後期ピアレビュー)による授業改善を推進する(関連①)、学生による授業アンケートから授業改善を推進する(関連①)、教職協働体制づくりのための研修を推進する(関連②・③)を目標に取り組んだ。

FD研修は毎月1回、学内研修会という形で実施した。

実施日	研修内容
4月26日(水)	年間活動の説明、巡回実習指導報告書の書き方(実習委員会共同開催)
5月24日(水)	研究倫理についての研修(倫理委員会共同開催)
6月30日(金)	ティーチング・ポートフォリオについて(教務部共同開催)
7月26日(水)	研究・紀要などの執筆に関する研修(倫理委員会共同開催)
8月2日(水)	自己点検評価全体研修会(自己点検評価委員会共同開催)
9月5日(火)	異文化理解を深めるために～本年度の新しい取り組み～ 講師 岩国川下幼稚園 園長 吉田佳子先生
9月13日(水)	ティーチング・ポートフォリオ作成研修
10月25日(水)	シラバス作成の研修(教務部共同開催)
11月15日(水)	保育者養成研究について紹介
12月6日(水)	ウィルス感染予防研修(教授会前に開催・教職員研修会)
1月24日(水)	ピアレビュー、授業評価アンケートについてのまとめ
2月21日(水)	1年間のまとめと次年度への課題・要望

FD研修会に加え、教員授業相互参観(前期・後期ピアレビュー)により、授業改善を推進した。結果、前期81%、後期81%の教員が実施した。FD研修会ではピアレビューについての研修も実施した。また、ピアレビューが個人の感想で終わりがちであるという課題に対し、観点を明確にする必要があったため、ピアレビュー記録用紙の改定も行った。その結果、記述内容が具体的になり、各教員の授業改善に役立った。前期・後期共に多科目のピアレビュー実施者が多くいた。100%実施を目指し、未提出・未実施の教員には個別に対応し、参加を促す。

授業改善については、学生による授業評価アンケートも実施し、学生の授業満足度を調査している。教員全員に授業評価アンケートを実施し(専任教員は前期後期、兼任教員は年に1度)アンケート結果から、授業評価報告書を作成している。専任教員実施100%、兼任教員実施100%、授業評価報告書提出100%である。授業評価結果から、授業改善の具体的な課題が明らかになった。なお、学生の授業満足度(最大値4)1年生3.64 2年生3.66という結果である。全体的にも満足度が高いと言える。今年度は学生の

授業満足度の項目で4(全員大変満足である)の科目があった。学生の授業満足度を維持するよう、今後も授業改善に取り組んでいく。

② SD 研修の充実

SD 活動は、「岩国短期大学 SD 実施委員会規程」により、毎月 1 回の定例委員会を開催し、事務局の業務の見直しや事務処理の改善等、事務職員の能力開発等を行っている。さらに、学外研修参加後には、学内での報告会を実施し、情報の共有に努めている。SD 研修会は、事前に事務職員全員に対し、今後必要と思われるスキル等についてアンケートを行い、それを参考にしながら実施している。本年度の SD 研修会の実施状況は次のとおりである。

令和 5 年度 SD 研修会

月 日	研 修 内 容
5 月 1 日(月)	「リモートソフト(ultra Vnc)の使い方」と活用について
5 月 18 日(木)	「学生の支援」について(前期)
8 月 23 日(水)	経営・財務状況等経営改善に関する説明会
9 月 20 日(水)	「学生の支援」について(後期)
9 月 29 日(金)	情報セキュリティ・個人情報の適正管理 メール発信について
10 月 16 日(月)	入試受付業務について
1 月 17 日(水)	令和 5 年度山口県大学図書館協議会研修会報告
1 月 29 日(月)	窓口対応マニュアルの見直し

③ 教職員合同研修会の実施(SWOT 分析、財務状況説明会、ハラスメント研修会 等)

教職協働の観点から、本学の教育推進及び教職員の資質向上を目的として、教職員合同研修会を次のとおり実施した。なお、本年度も岩国短期大学・高水高等学校合同の「SWOT 分析」の研修を行った。

令和 5 年度教職員合同研修会

月 日	内 容
8 月 2 日(水)	自己点検・評価教職員全体研修会
8 月 23 日(水)	経営・財務状況等経営改善に関する説明会 岩国短期大学・高水高等学校合同推進会議「SWOT 分析」
9 月 6 日(水)	ハラスメント研修会
12 月 6 日(水)	ノロウイルス及び新型コロナウイルス感染症の予防について

④ 自己点検・評価活動の推進(P-D-C-Aサイクルによる教育の質の保証)

・「学校運営方針」の策定と反省総括

本学では、科の教育活動組織及び教職員学内運営組織により、PDCA サイクルを用いて自己点検・評価活動に取り組んでいる。本年度は、昨年度の反省総括を踏まえ、年度初めに「学校運営方針」を策定し、具体的な実践を行った。各部、委員会等で、実施した結果のデータやステークホルダーによる評価などを収集、分析し、3 月に反省総括を行った。

・IR(Institutional Research)推進室によるデータの収集と分析

「学力の追跡調査」を中心にデータ収集と分析を行った。データ収集については学習成果個人 Check カード、GPA 値、退学者数等を主なデータとし、分析については高校別、選抜別に集計・分析を行った。その結果、例年 2 年次後期に学習成果の向上が見られるが、4 つの資質・能力すべてにおいて低下またはほぼ変化が見られなかった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な行事等は中止や規模縮小、授業形態等方法を変えての実施等となり、その影響が表れていると推察する。

(4)ICT(Information and Communication Technology)教育の推進

・ICT教育を活用した授業の推進

令和2年度に作成した「岩国短期大学 ICT(情報通信技術)活用スキル習得プログラム」を推進し、活用スキルの向上と授業改善に取り組んでいる。特に、コアカリキュラム対象科目を中心に、担当教員が授業で学生の活用スキル向上に役立つ実践的な活動を取り入れるなど、講義の工夫を行っている。

・「Web 版実習サポート」「Web 版施設実習サポート」の活用

「Web 版実習サポート」として、実習中の毎日の勤務状況を確認し、問題が生じた際には学生や実習先への速やかな対応ができた。

・Google Classroom を活用した授業支援

対面での実習ができない場合を想定し、学内実習での対応できるよう Google Classroom を活用し、専任教員が担当科目の演習ビデオを作成しサポートできるよう準備した。

・LINE を活用した就職支援の推進

キャリア支援センターでは、卒業後の就職支援に LINE を開設し、卒業後気軽に相談できる窓口として活用している。また、早期離職防止対策で開講する「フォローアップセミナー」の案内や実施後のアンケート結果報告にも活用した。さらに「卒業後のアンケート」の連絡では、回答率向上につながり、今後の学校教育にも反映していきたい。そのほかに山口県立東部高等産業技術学生への毎月の就業支援も LINE にて行い、勤務時間に配慮しながらの状況確認をすることができ離職防止につながった。

(5)M.C.Perry Primary Shool との連携

・現地訪問による関係構築

コーディネーターの事情等もあり、本年度は訪問事業を実施しなかった。

・「特別活動Ⅰ」「特別活動Ⅱ」における異文化交流の授業の実施

米軍基地所属の家族を持つ園児が多く通う岩国川下幼稚園吉田佳子園長と Melissa Fuerst 教諭をゲストティーチャーとして招き、10月5日及び11月24日に「特別活動Ⅰ・Ⅱ」の異文化交流授業を行った。講義や演習を通して学生は多文化共生社会における保育について学ぶことができた。

(6)感染症対策室を中心とした健康・安全な学校生活の運営

・新型コロナウイルス感染症等への早期の対応

新型コロナウイルス感染症が感染症分類で第5類になったため、国の指針に基づきマスクの着用等は個人の判断に任せることとした。学内の消毒液は、未だ不安を感じる学生もいることから、各棟と飲食できる学生ホールのみアルコール消毒を配置した。

感染が広がる時期には、迅速に手洗い等の感染予防について学生及び全教職員に周知し、安心な教育環境づくりに努めた。

・学生への配慮

学内での感染予防策としては、全学生等の活動時には、換気による感染予防を実施し、安全な教育環境づくりを行った。

インフルエンザや新型コロナ感染症に罹患した場合、治癒後に治癒証明書ではなく、通学届書を提出することで、授業の公欠手続きを迅速にできるよう配慮した。

3. 令和5年度の具体的な事業内容(短期大学)

	主な学校行事	保育者養成の取り組み	就職支援の取り組み	地域貢献の取り組み	入学定員確保の取り組み
4月	○入学式、保護者懇談会 ○オリエンテーション ○東部校訓練生入校式 ○非常勤合同会議 ○法人連絡会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○自己点検・評価運営協議会	*1.2年生合同集会	*新入生研修会 *就職面談・面接指導 *就職ガイダンス *2年生就職試験対策講座	*学生ボランティアの協力	*指定校接滞回り *幼児教育科「ホット・ニュース」発信
5月	○学生交流会 ○後援会理事会 ○理事会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○火災等防災訓練 ○岩国市長特別講義	*ようこそ先輩！保育実践力養成講座（保育所編） *lwatan親子広場 *ハイブリッド形式による教育・保育実習連絡協議会 *2年生実習前学習（手遊び、パネルシアター等） *絵本読み聞かせ指導 *絵本100冊読みの実施	*就職ナビ in いわたん *就職面談・面接指導 *就職開拓訪問 *2年生就職試験対策講座	*lwatan親子広場 *学生ボランティアの協力 *生涯学習公開講座 *岩国市との連携推進会議 *岩国商工会議所との連携推進会議 *高大連携協定校との連携推進会議	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業
6月	○保護者懇談会 ○後援会総会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会	*1.2年生合同集会 *lwatan親子広場 *教育実習Ⅱ *保育所見学実習 *近隣幼稚園児との芋の苗植え *近隣幼稚園児を招いての「お店屋さんごっこ」	*フォローアップセミナー *就職面談・面接指導 *2年生就職試験対策講座	*lwatan親子広場 *学生ボランティアの協力 *生涯学習公開講座	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *オープンキャンパス *広報誌「愛宕山」発行 *高校進路担当者説明会
7月	○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○自己点検・評価運営協議会 ○教職員全体研修会	*lwatan親子広場 *山口県保育者養成協議会総会	*就職面談・面接指導 *現職園長による面接指導講座	*lwatan親子広場 *学生ボランティアの協力 *生涯学習公開講座	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *オープンキャンパス
8月	○法人連絡会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○短大・高水合同研修会	*保育実習Ⅰ *施設見学実習 *学生自主実習	*就職面談・面接指導 *1年生インターンシップ実習	*学生ボランティアの協力 *保育者対象研修会 *卒業生対象保育実践研修会	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *オープンキャンパス *高水高校との合同OC
9月	○オリエンテーション ○法人連絡会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○OFD研修会	*lwatan親子広場 *保育実習Ⅱ or Ⅲ	*就職面談・面接指導 *1年生インターンシップ実習 *就職ガイダンス(1年)	*lwatan親子広場 *学生ボランティアの協力	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *オープンキャンパス
10月	○クリーン・プロジェクト ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会	*1.2年生合同集会 *lwatan親子広場 *ようこそ先輩！保育実践力養成講座（幼稚園・認定こども編） *2年生実習前学習（素話） *教育実習Ⅲ	*就職面談・面接指導	*lwatan親子広場 *学生ボランティアの協力 *生涯学習公開講座 *「岩国祭り」学生ボランティア協力	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *オープンキャンパス
11月	○大学祭「清流祭」 ○後援会理事会 ○法人連絡会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会	*lwatan親子広場 *1.2年生合同集会 *大学祭 *近隣幼稚園児との芋の収穫 *1年生実習前学習（漢字・手遊び）	*就職面談・面接指導	*lwatan親子広場 *学生ボランティアの協力 *生涯学習公開講座	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *オープンキャンパス

12月	○保護者懇談会 ○法人連絡会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○ノロウイルス対策研修会	*教育実習Ⅰ *中・四国保育学生研究大会 *ウィンターコンサート *プレカレッジ *ようこそ先輩！保育実践力養成講座（施設編）	*就職面談・面接指導 *卒業生就職先アンケート	*学生ボランティアの協力 *第13回 Iwatan 親子フェスタ協賛依頼 *生涯学習公開講座	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *入試説明会 *広報誌「愛宕山」発行
1月	○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会	*ハイブリッド形式による施設実習連絡協議会 *プレカレッジ *保育・教職実践演習研究発表会	*就職面談・面接指導 *就職ガイダンス(2年)	*学生ボランティアの協力 *保育者対象研修会	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *社会人向けオープンキャンパス
2月	○研究紀要の発行 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○自己点検・評価運営協議会委員会 ○ハラスメント研修会	*プレカレッジ *施設実習 *学生自主実習	*就職面談・面接指導 *1年生インターンシップ実習	*岩国市との連携推進会議 *岩国商工会議所との連携推進会議 *高大連携協定校との連携推進会議	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *社会人向けオープンキャンパス
3月	○学位記授与式 ○東部校訓練生退校式 ○同窓会入会式 ○理事会 ○教授会、幼児教育科会 ○運営協議会、各部会、委員会 ○自己点検・評価運営協議会 ○自己点検・評価委員会 ○事業計画の総括と改善 ○自己点検・評価報告書の作成 ○アカデミー報告書の作成	*プレカレッジ *卒業記念コンサート *学生自主実習 *第13回 Iwatan 親子フェスタ	*就職面談・面接指導 *1年生インターンシップ実習	*学生ボランティアの協力 *第13回 Iwatan 親子フェスタ *宮川渙男賞、地域貢献奨励賞表彰 *アカデミー実行委員会 *アカデミー報告書作成	*高校訪問 *幼児教育科「ホット・ニュース」発信 *高大連携授業 *オープンキャンパス

■【高等学校・付属中学校】

I 事業報告

今年度5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染に移行され、全ての行事を予定通り行うことができた。今年度については、次の項目が成果として挙げられる。

- 1.授業時間数確保に努めたことにより、学力の定着に繋げることができた。
- 2.朝の校外巡視や休み時間の教室巡回などで生徒に声をかけ、状態を把握した。小さな変化を見逃すことなく、迅速な対応に繋げることができた。
- 3.クラス(学年)通信の発行等により情報発信が改善できた。
- 4.勤務超過への回復措置を周知し、働き方改革を進めた。
- 5.姉妹校との交換留学を再開。円安、物価高騰の中にあっても、オーストラリアへの修学旅行が実施できた。
- 6.部活動大会上位入賞や優勝等、指導の成果が結果としてあらわれた。
- 7.授業時間数不足生徒への補講を実施し、進級、卒業への可能性を繋げることができた。

II 事業内容

1. 3つの保障(人間性・基礎学力・進路)について

(1)学力の保障

①教員研修 年5回(1学期2回、2学期3回)

- 1.教務事務処理
- 2.スタディサプリ活用研修会
- 3.高大連携 SWOT 分析会
- 4.令和6年度に向けて(サタデープログラム)

5.出張報告(復伝)

私学教育研修会・人権教育研修会・危機管理研修会・管理職研修会・P 連視察報告

②教科会議 原則、毎週 1 回実施

③教員相互授業参観 2 回(1・2 学期)実施

(2)人間性の保障

【高校】

特別活動(生徒会活動・学校行事)や部活動を通した取り組みを実施した。

①運動会 9 月 3 日 日曜日開催

②楽学祭 9 月 21 日～22 日 テーマ「Release ～今しかできない青春を～」

※保護者、祖父母、本校生徒の保護者が同伴する兄弟姉妹の参観

③修学旅行

○普通科 2 年生修学旅行 2 月 14 日～17 日、関東方面

○六年制普通科 1・2 年生 10 月 22 日～28 日、オーストラリア

④部活動

○全国高等学校総合体育大会出場

◇女子ハンドボール部 ◇空手道部 ◇柔道部

○全国高等学校総合文化祭鹿児島大会 ・ NHK 杯全国高校放送コンテスト出場

◇放送部

○春の選抜大会

◇団体:女子ハンドボール部 ◇個人:空手道部

【付属中学校・六か年一貫教育】

特別活動(生徒会活動・学校行事)や部活動、郊外活動を通した取り組みを実施。

①運動会 9 月 3 日 日曜日開催

②楽学祭 9 月 21 日～22 日 テーマ「Release ～今しかできない青春を～」

※保護者、祖父母、本校生徒の保護者が同伴する兄弟姉妹の参観

③30km遠足 10 月 31 日

大島を出発し、大島駅までの遠足を実施

④中六講演会 11 月 8 日 チャン愛 氏(H24 卒業)演題:Find Your Superpower

⑤中六合同発表会 2 月 17 日開催

今年度は中高ともに学年の枠を超えた異学年で構成されるグループをつくり、各班が独自にテーマを決め、探求学習を行い、その成果を発表会でプレゼンし、皆で共有した。

⑥英語暗唱大会 9 月 6 日

岩国市英語暗唱・弁論大会(J3 の生徒が山口県大会で優勝し、全国大会出場)

⑦百人一首カルタ大会 1 月 26 日

⑧学年行事を楽しむ

・1年:高水訪問、スプリングセミナー4月19・20 日実施。

・2年:史跡めぐり5 月 26 日、サマーセミナー8 月4日～6 日、14 歳新たな誓い3 月 8 日実施。

・3年:オータムセミナー11 月 15 日、岩国空襲を巡る平和学習を特別企画実施。

(3)進路の保障

①進路指導

外部模試を活用した客観的な学力把握

【高校】進研、全統、駿台模試を実施し、模試検討会 3 回実施した。

【中学校】学力推移調査を各学年春夏冬3回し、教科会議で検討を行った。

②進路研修会

高校保護者対象：各学年 2 回実施。

高校生対象：各学年 2 回実施。

③高校生対象

就職ガイダンス(夏季休業中)を実施。

＊令和 5 年度卒業生(132 名)の進路

・進学者 107 名(4 年制大学 53 名、短期大学 7 名、専門学校 43 名)、浪人生 4 名

・就職者 24 名(公務員 1 名、民間 22 名)、家居(未定者)1 名

・職業訓練校 1 名

2. 特色を出す取り組み(令和6年度に向けて)

①普通科

・コースを改変し、アドバンスコースとキャリアデザインコースを新設

・土曜日の授業を平日にうつし、サタデープログラムを新設

②六年制普通科

・授業時間確保のため、年度末の午前中4時間授業を6時間授業へ変更

・土曜日 45 分授業を 50 分授業へ

3. 高校生補講実施

授業時間数不足対策として、診断書が提出された生徒に対して検討会議後、補講を実施。

4. 学校関係者評価委員会開催

外部委員 5 名から指導・助言を得た。

○今年度外部委員：

PTA：三浦留美氏、企業：藤井明宣氏、中磯和子氏、教育界：弘中幸雄氏、地域：村本大輔氏の 5 名。

○各学期開催(年 3 回) 6 月 3 日、11 月 11 日、3 月 17 日

3 月に自己評価書を理事会に提出し、次年度の改善策を検討した。

5. グローバル化・異文化理解に向けた下記のプログラムを実施

○オーストラリアサザンクロス校との短期交換研修プログラム

○交換留学実施(2学期～) フランスからの女子留学生受け入れ

○ユネスコスクール高水の推進

・愛宕地区社会福祉協議会の皆さんと共同で清掃活動実施

・岩国ユネスコ協会との連携

・国際理解と国際協力のための作文コンクール等への参加

・海外姉妹校との交流プログラム(ホームステイ受け入れ)

・台湾台北市健成国民中学校と友好親善交流

6. 広報活動

入試に向けて、広報活動を展開した。

【高校】

(1) 中学校進路説明会(6月初旬～7月初旬)

校長・教頭・科長・松原(広報)14校

(2) 中学校訪問

R5.7月 科長・中堅教員 広島五日市～周南市 41校

⇒内容:入試、学校案内、オープンスクールへの案内

R5.12月 校長・科長 広島五日市～周南市 41校

⇒内容:入試説明

R6.3月 普通科教員2名ずつ市内6校

⇒内容:今年度入試結果の情報収集と入学生の情報意見交換

(3) 中学校教員対象進路説明会

9月13日 岩国市内、柳井・大島地区、西広島地区から26名参加

(4) 塾対象説明会

9月14日 岩国市内、柳井、広島市地区から13名参加

(5) オープンスクールの開催(8月・10月・11月)

○第1回オープンスクール 8月6日(日)・7日(月)

内容 ①授業体験講座 ②クラブ見学・クラブ体験 ③校内見学

参加者 8月6日 生徒183名 保護者64名 計247名

8月7日 生徒16名 保護者11名 計27名

○第2回オープンスクール 8月27日(日)

内容 ①短大体験講座 ②クラブ見学・クラブ体験 ③校内見学

参加者 生徒138名 保護者51名 計189名

○第3回オープンスクール 10月8日(日)

内容 ①短大体験講座 ②クラブ見学・クラブ体験 ③校内見学

参加者 生徒51名 保護者26名 計77名

○入試説明会 11月11日(土)

内容 ①入試対策講義 ②校内見学 ③クラブ体験

参加者 生徒74名 保護者55名 計129名

【中学校】

(1) 小学校訪問 5月

・岩国市～五日市市の小学校を訪問、学校長に挨拶

・オープンスクールの紹介と出身生徒の現状報告

(2) 学習塾訪問

(3) オープンスクール

内容: i 生徒会による学校紹介 ii 模擬授業体験 iii 質問コーナー

○第1回 6月11日(日)実施

参加児童36名(内6年生13名)保護者54名

○第2回 7月15日(土)

参加児童20名(6年生7名)保護者30名

○第3回 8月20日(日)実施

参加児童15名(6年生4名) 全3回で計71名(内6年生24名)

(4)入試説明会案内発送 小学校 63 校、塾 32 校

(5)入試説明会

○第 1 回開催 10 月 1 日(日) 参加児童 16 名

○第 2 回開催 11 月 5 日(日) 参加児童 5 名

Ⅲ. 主な施設・設備整備事業の概要

【法人】

○学園全体で、施設・設備の修繕を行った。

【短期大学】

○施設整備における補修や修繕計画を立案し、急を要する箇所から実施した。

○補助金を活用し、学生ホールの充実を図った。

【高等学校・付属中学校】

○校舎と校内の施設設備における修繕を行った。

○人目の付きにくい場所への防犯カメラ設置により、生徒の安心安全を強化することができた。

○施設整備の補修や修繕計画を立案し、実施に向けて計画書を作成した。

○ホームページの見直しを実施した。

○校務支援システムの導入を決定した。

IV. 財務の概要（表の値は、会計士による監査を受ける前のものであり、暫定値とする。）

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

特定資産（退職給与引当特定資産）は、現況を維持するに、約1900万円の減とした。

資産運用利率の低迷により、配当額が極端に減少した。

② 収支計算書の状況

少子化の影響もあり、入学生の確保が困難な状態から、収益が悪化している。

(2) 経年比較（単位：千円）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	4,130,271	4,014,189	3,901,714	3,786,676	3,687,717
流動資産	545,777	469,581	452,119	377,689	360,740
資産の部合計	4,676,048	4,483,770	4,353,833	4,164,365	4,048,457
固定負債	174,124	167,864	160,963	139,084	120,235
流動負債	168,241	99,486	121,813	58,150	120,187
負債の部合計	342,365	267,350	282,776	197,234	240,422
基本金	4,628,942	4,634,093	4,580,058	4,581,417	4,581,417
繰越収支差額	△ 295,259	△ 417,672	△ 509,001	△ 614,287	△ 773,382
純資産の部合計	4,333,683	4,216,421	4,071,057	3,967,130	3,808,035
負債及び純資産の部合計	4,676,048	4,483,771	4,353,833	4,164,364	4,048,457

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	380,606	395,442	363,906	363,025	323,502
手数料収入	21,532	19,191	20,022	19,023	19,630
寄付金収入	14,668	5,026	5,884	5,205	5,872
補助金収入	279,706	304,276	262,033	249,170	237,963
資産売却収入	300	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	19,597	17,789	15,693	23,962	25,972
受取利息・配当金収入	2,614	2,359	3,714	1,025	323
雑収入	110,057	49,187	68,317	21,495	75,268
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	45,895	37,663	39,719	30,547	30,798
その他の収入	116,540	164,543	118,439	99,738	48,325
資金収入調整勘定	△ 166,467	△ 149,626	△ 119,509	△ 68,517	△ 142,055
前年度繰越支払資金	410,441	416,929	362,268	364,664	340,018
収入の部合計	1,235,489	1,262,779	1,140,486	1,109,337	965,616

支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	715,584	631,110	634,041	564,228	611,132
教育研究経費支出	106,695	142,805	126,688	124,270	137,724
管理経費支出	28,700	28,938	27,215	25,334	27,238
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	1,752	4,235	0	803	0
設備関係支出	5,667	7,702	8,313	915	2,934
資産運用支出	33,334	26,221	400	300	400
その他の支出	41,638	115,309	54,786	75,418	20,926
資金支出調整勘定	△ 114,808	△ 55,809	△ 75,621	△ 21,950	△ 83,458
翌年度繰越支払資金	416,929	362,269	364,664	340,018	248,720
支出の部合計	1,235,491	1,262,780	1,140,486	1,109,336	965,616

イ) 活動区分資金収支計算書

科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	823,507	756,591	732,832	681,580	686,001
教育活動資金支出計	850,979	802,853	787,945	713,832	776,094
差引	△ 27,472	△ 46,262	△ 55,113	△ 32,252	△ 90,093
調整勘定等	△ 4,325	△ 14,420	19,493	△ 14,083	△ 20,950
教育活動資金収支差額	△ 31,797	△ 60,682	△ 35,620	△ 46,335	△ 111,043
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	29,960	52,321	13,023	300	2,206
施設整備等活動資金支出計	7,419	11,937	8,314	1,718	2,933
差引	22,541	40,384	4,709	△ 1,418	△ 727
調整勘定等	△ 4,604	△ 32,298	22,233	1,023	1,023
施設整備等活動資金収支差額	17,937	8,086	26,942	△ 395	296
小計（教育活動資金収支差額・施設整備等活動資金収支差額）	△ 13,860	△ 52,596	△ 8,678	△ 46,730	△ 110,747
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	53,832	24,657	11,472	23,203	19,850
その他の活動資金支出計	33,485	26,722	400	1,119	400
差引	20,347	△ 2,065	11,072	22,084	19,450
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	20,347	△ 2,065	11,072	22,084	19,450
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	6,487	△ 54,661	2,394	△ 24,646	△ 91,297
前年度繰越支払資金	410,441	416,929	362,269	364,664	340,018
翌年度繰越支払資金	416,929	362,269	364,664	340,018	248,721

ウ) 事業活動収支計算書

科目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	380,606	395,442	363,906	363,024	323,502
	手数料	21,532	19,191	20,022	19,023	19,630
	寄付金	12,710	4,767	5,444	4,965	3,666
	経常費等補助金	279,206	270,455	259,510	249,170	237,963
	付随事業収入	19,597	17,789	15,693	23,962	25,972
	雑収入	110,057	49,187	70,717	36,375	94,156
	教育活動収入計	823,708	756,831	735,292	696,519	704,889
	事業活動支出の部					
	人件費	708,626	624,850	629,541	557,229	611,170
	教育研究経費	183,989	219,126	203,412	193,781	206,595
	管理経費	32,170	32,525	30,624	28,743	30,647
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	924,785	876,501	863,577	779,753	848,412
	教育活動収支差額	△ 101,077	△ 119,670	△ 128,285	△ 83,234	△ 143,523
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	2,614	2,358	3,714	1,025	323
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	2,614	2,358	3,714	1,025	323
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	2,614	2,358	3,714	1,025	323
	経常収支差額	△ 98,463	△ 117,312	△ 124,571	△ 82,209	△ 143,200
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	173	0	0	0	0
	その他の特別収入	2,825	34,559	3,023	300	2,206
	特別収入計	2,998	34,559	3,023	300	2,206
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	1,042	34,511	23,815	22,018	10,763
	その他の特別支出	0	0	0	0	7,338
	特別支出計	1,042	34,511	23,815	22,018	18,101
	特別収支差額	1,956	48	△ 20,792	△ 21,718	△ 15,895
	基本金組入前当年度収支差額	△ 96,507	△ 117,262	△ 145,364	△ 103,927	△ 159,095
基本金組入額合計		△ 1,163	△ 5,151	△ 5,954	△ 1,358	△ 805
当年度収支差額		△ 97,670	△ 122,413	△ 151,318	△ 105,285	△ 159,900
前年度繰越収支差額		△ 205,248	△ 295,259	△ 417,672	△ 509,001	△ 614,287
基本金取崩額		7,658	0	59,990	0	11,567
翌年度繰越収支差額		△ 295,259	△ 417,672	△ 509,001	△ 614,287	△ 762,620
事業活動収入計		829,320	793,748	742,029	697,844	707,418
事業活動支出計		925,827	911,012	887,392	801,771	866,513

(4) その他

① 有価証券の状況

西中国信用金庫の発行券を、35,000円分保持する。

② 借入金の状況

なし

③ 学校債の状況

なし

④ 寄付金の状況

教育振興寄付金を原資とする、教育活動の活性化に努めている。

⑤ 補助金の状況

臨時に用意する補助事業に対しても申請をしている。(防音事業等)

⑥ 収益事業の状況

なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

あり(100万円未満の賃料のため、取引の重要性を判断する際の取引基準に該当しない。)

イ) 出資会社

なし

⑧ 学校法人間取引

なし